

4 施策展開の方向

(1) 若い世代を中心とした食育の推進

① 就学前の子供に対する食育の推進

「早寝早起き朝ごはん」と「噛ミン30（カミングサンマル）*」の実践による基本的な生活習慣の確立や、生活習慣病*につながる恐れのある肥満防止のための適切な食習慣や運動習慣を実践するための効果的な方法を情報発信します。また、家庭と保育所・幼稚園等が互いに補完し合い連携しながら、子供の発達段階に応じて、食への関心や食品を選ぶ力、食に関わる人々へ感謝する心が育つような食育を進めます。

② 学校における食に関する指導の充実

子供たちに望ましい食習慣と食に関する自己管理能力を身に付けさせるために、各学校において食に関する指導の全体計画を策定し、学校長のリーダーシップのもと、全教職員が連携・協力して食育を推進します。

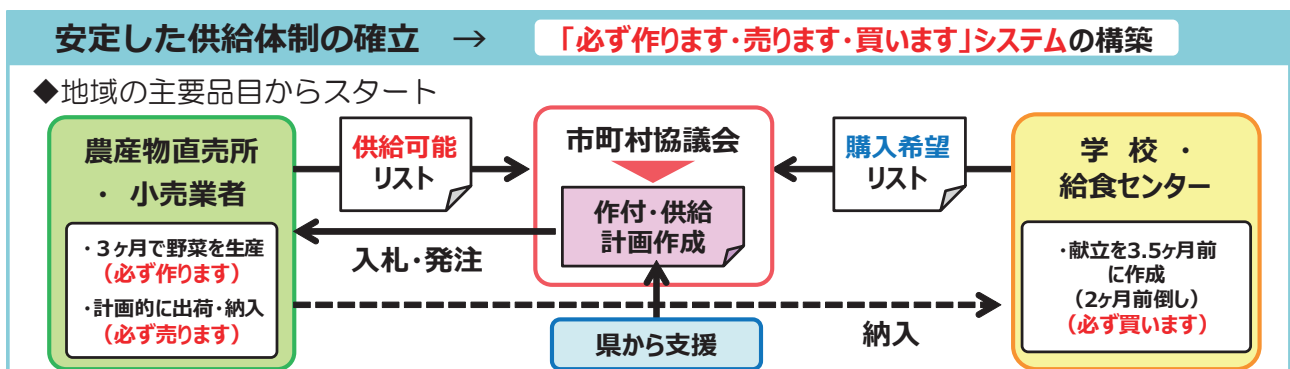
また、学校での保護者を対象とした給食試食会や児童生徒への指導等を通じ、保護者への食育にも取り組みます。

さらに、食育の中心的な役割を担う栄養教諭*については、配置割合を増加し、専門性を生かした食に関する指導を行います。

③ 学校給食の充実

学校での食に関する指導の生きた教材となる学校給食の実施率の向上を図ります。

学校給食への地場産物の活用は、地域の自然・文化や産業、生産の苦勞への理解を深め、食に対する感謝の気持ちを育む上で意義があることから、「学校給食での和歌山産品利用拡大戦略アクションプログラム」に基づき、給食で使用する主要農水産物の提供や「必ず作ります・売ります・買います」システムづくり等を推進します。



(2) 健康寿命の延伸につながる食育の推進

① 生活習慣病の予防・改善にむけた食生活の推進

生活習慣病*やメタボリックシンドロームの予防として、「特定健康診査*」、「特定保健指導」の実施に加え、特に働き盛りの年代等を中心に、生活習慣の改善を自らが選択し、行動変容につなげるよう、医師、歯科医師、歯科衛生士及び管理栄養士等による健康講座の開催などを積極的に推進します。また、「健康日本21」で望ましいとされる野菜摂取量、食事バランスガイドで示されている果物の摂取量がいずれも目標を下回っているため、野菜や果物のもつ機能性をPRしながら、摂取拡大を推進します。



健康講座



生活習慣病予防の料理教室

② 健康づくり運動の推進

食と健康の関係を正しく理解し、実践に結びつけられるよう、「わかやま健康と食のフェスタ」の開催をはじめ、様々な行事等の機会を通じて「食生活指針*」や、1日にとる食事の望ましい組み合わせやおおよその量を地域の食材や郷土料理も交えてわかりやすく示した和歌山版「～紀州わかやま～食事バランスガイド」*の普及啓発に取り組みます。



わかやま健康と食のフェスタ



食事バランスガイド

(3) 多様な暮らしに対応した食育の推進

① 「和歌山県食育月間」の普及・定着

国が設定する「食育月間」(毎年6月)や「食育の日」(毎月19日)に加え、毎年10月を「和歌山県食育推進月間」と定め、この期間中には「県民の友」やメディアを通じた啓発をはじめ、「わかやま健康と食のフェスタ」や各研修会など食育に関するイベント・行事を集中的に開催することにより、県民の食育に対する理解を深めるとともに、食育に取り組む気運を醸成し、食育推進運動の定着を図ります。

② 「共食」の推進

「おやこ食育教室」や「ふれあい給食」の開催等を通じ、食を通じて豊かな情緒が育まれ、望ましい食習慣や社会性が身に付けられるよう、家族と食卓を囲んで共に食事を取りながらコミュニケーションを図る「共食*」を推進します。

また、社会環境の変化や様々な生活様式等、食をめぐる状況の変化に伴い健全な食生活を送ることが難しい子供の存在にも配慮し、子供食堂等により共食*の機会を提供する関係機関・団体との連携に努めます。

③ 地域や関係団体との連携

多様な関係者で構成する県食育推進会議を中心に、関係団体等のネットワークを活用し、市町村等とも連携しながら、幅広い食育の展開を推進します。



食育研修会



おやこ食育教室

(4) 食の循環や環境を意識した食育の推進

① 地産地消の推進

地産地消*を重点的に推進するため、毎月第3月曜日から1週間を「ふるさと和歌山食週間」と定め、地場産物の利用拡大や食文化への理解促進に取り組みます。

また、地場産物の直売所整備を支援するとともに、県ホームページで直売所情報を発信します。

② 体験活動を通じた食の学習の推進

農業や漁業等を実感・体験できる場や機会の提供に加え、保育所・認定こども園・幼稚園・学校において栽培体験学習、ボランティアによる出前授業などの幅広い取組を推進するとともに、農林水産業者、食品関連事業者、関連団体等が地域において行う体験学習を推進します。

③ 食品関連事業者等と連携した食育の推進

栄養バランスに優れたメニューや弁当などを提供する「和歌山食育応援店」や、地場産物や郷土食等の理解促進と地場産物の利用拡大に取り組む「ふるさと和歌山食週間推進店舗」など、食育や地産地消*を推進する店舗を増やし、企業と連携して県民が食育に取り組みやすい環境整備を行います。

また、家庭等での食品ロス*の削減について県民一人一人が認識を深め、削減につながるよう啓発するとともに、まだ食べられるにもかかわらず廃棄される食品を必要とする人に届けるフードバンク*の取組は、食品ロス削減の観点からも有効であり、JAや食品関連事業者等に対して、その仕組みや意義を周知していきます。

④ 食の安全・安心に関する知識の啓発

県民自身が食の安全の知識を身に付け、適切な食品選択ができるよう食に関する様々な情報を、パンフレットや県のホームページなどにより、わかりやすく、正確・迅速に発信します。

食の安全・安心の確保については、和歌山県食の安全・安心確保のためのアクションプランにより総合的かつ計画的に取り組めます。



ふるさと和歌山食週間



稲刈り体験

(5) 食文化の継承に向けた食育の推進

① 地域の特色ある食文化の理解と伝承

地域で育まれた郷土料理や伝統食、行事食などの食文化を継承するため、県ホームページ等での発信に加え、親子料理教室や小学校等での調理体験など関係団体が開催する料理教室を支援します。

また、食に関するイベントを通じ、世代を超えた交流を促進し、農業や地域の農産物の理解を促進するとともに、食文化の伝承を推進します。

② 生産者と消費者の交流促進

農林水産物の生産現場は、地域で食育を進めていく上で貴重な学習の場であり、消費者との交流拠点となる施設の整備を支援します。

また、産地直売所等における旬の食材PRや、農業・漁業体験、伝統料理の講習会等のイベントを通じ消費者との交流を促進します。

③ ボランティア活動等民間の取組への支援、表彰等

食に関する豊かな知識と経験を持ち、県民生活に密着した活動を行う人材を、関係機関、団体等と連携して育成し、これらの人材の活用を推進します。

また、「わかやま食育応援隊*」をはじめ、ボランティア等による自発的な食育活動を支援するとともに、優れた活動を行う個人や団体に対して表彰を行います。



日高の海と山を味わう会

(日高地方生活研究グループ連絡協議会)



小学校での調理体験（調理師会）